

God With Us

Part 7: Kings & Prophets to Exile and Return

Judah's Fall and God's Faithfulness

Message9-The "Son of Man" Arrives (Palm Sunday,2018)

神は我らと共に

パート7：王と預言者たちの強制退去と帰還
ユダのつまずきと神の忠実さ

第九メッセージ「人の子」が来られる
(パームサンデー)

はじめに

救世主到来のタイミングについてのダニエルの預言は他のどの預言者のものよりも正確であった。具体的に、第9章の70週間の預言で、メシアが来るまでに69週間（7週+62週=483日）かかるとダニエルは告げられた。

それゆえ、エルサレムを建て直せという命令が出てから、メシヤなるひとりの君が来るまで、七週と六十二週あることを知り、かつ悟りなさい。その間に、しかも不安な時代に、エルサレムは広場と街路とをもって、建て直されるでしょう。その六十二週の後にはメシヤは断たれるでしょう。ただし自分のためにではありません。またきたるべき君の民は、町と聖所とを滅ぼすでしょう。その終りは洪水のように臨むでしょう。そしてその終りまで戦争が続き、荒廃は定められています。（ダニエル書9：25，26）

紀元前445年のアルタクセルクセス・ロンギマヌスの法令。エルサレムに戻って再建する許可をネヘミヤに与えた（ネヘミヤ記2：5-8）。483年早送ると（1年360日として）、イエス様の生涯の最後の週の初めで、過ぎ越しの祭のためにエルサレムに上られた。「パームサンデー」のイエス様のエルサレム入城については、4つの福音書それぞれが記録している。

しかし、イエスの入場の真の意味を一番長く解説しているのはヨハネの福音書である。イエス様は、「人の子」として来られました。賞賛されるためではなく、ただ殺されるために来られた（ダニエル書9：26）。

大勢の群集、イエスの入城を祝う

その翌日、祭にきていた大ぜいの群衆は、イエスがエルサレムにこられると聞いて、しゅろの枝を手にとり、迎えに出て行った。そして叫んだ、「ホサナ、主の御名によってきたる者に祝福あれ、イスラエルの王に」。イエスは、ろばの子を見つけて、その上に乗られた。それは「シオンの娘よ、恐れるな。見よ、あなたの王がろばの子に乗っておいでのになる」と書いてあるとおりであった。弟子たちは初めにはこのことを悟らなかったが、イエスが栄光を受けられた時に、このことがイエスについて書かれてあり、またそのとおりに、人々がイエスに対してしたのだということ、思い起した。また、イエスがラザロを墓から呼び出して、死人の中からよみがえらせたとき、イエスと一緒にいた群衆が、そのあかしをした。群衆がイエスを迎えに出たのは、イエスがこのようなしるしを行われたことを、聞いていたからである。そこで、パリサイ人たちは互に言った、「何をしてもむだだった。世をあげて彼のあとを追って行ったではないか」。

（ヨハネの福音書12：12-19）

過ぎ越しの祭りのために、エルサレムにはおよそ200-300万人が集まった。全国の約半分の人口がこの祝いに集まる。つい過去数週間内に、イエスは近くの町ベタニヤの墓に葬られたラザロを4日後に生き返らせた（ヨハネの福音書11：38-44）。その結果、過ぎ越しの週のためにイエス様がエルサレムに向かわれる途中、ベタニヤとその周辺をイエスに大群衆が付いて回った。エルサレムに近づき、入城の際にイエス様に言われた通りに、乗り入るためのロバを用意した。

これは、ゼカリヤ書の500年前の預言の成就（ゼカリヤ書9：9）だけでなく、訪れる王が町に入る際に乗る習慣的な方法でもあった。王が白い戦争馬に乗って来た場合、それは戦争宣言のような脅迫行為であった。しかし、もし王がロバに乗ってきた場合、それは平和の行為であり、外交宣言であった。

イエス様がロバに乗って大群衆と共にエルサレムに入城されたとき、町の人々は歓迎するために出て来た。それもまた習慣であった。新しいグループの巡礼者が到着すると、街の人々が彼らを歓迎するために外に出て、詩篇の歌を互いに唱え、礼儀正しく応答した。よく用いられた箇所が私たちのよく知る詩篇118篇である。

「ダビデの子に、ホサナ。主の御名によってきたる者に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」。

「ダビデの子」は、永遠に続く王国を支配するために神がダビデの息子を送って下さるという1000年前の約束を指している。「ホサナ」は詩篇118篇からの救いのための叫びで「今直ぐお救いください！」を意味する。全ての背景をまとめるとき、何が起きているか明確になる。この巨大な群衆は、この3年間、信じられないほどの奇跡を起こして来られたイエス様が、いよいよエルサレムに来られ、ローマを打ち倒し、ユダヤ人が何世紀にもわたって受けて来たあらゆる抑圧（特に100年にさかのぼるローマの弾圧）を覆し、天国の様な王国を設立するために町に来てくださったと信じていた。

ルカの記述では、エルサレムの町を遠くから眺めながら、誤った期待を感知しているイエス様が泣かれた。

いよいよ都の近くにきて、それが見えたとき、そのために泣いて言われた、「もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら.....しかし、それは今おまえの目に隠されている。いつかは、敵が周囲に壘を築き、おまえを取りかこんで、

四方から押し迫り、おまえとその内にいる子らとを地に打ち倒し、城内の一つの石も他の石の上に残して置かない日が来るであろう。それは、おまえが神のおとずれの時を知らないでいたからである」。（ルカの福音書19：41-44）

「訪問」という言葉は、再度用られている箇所がある（第一ペテロ2：12：イエス・キリストの再臨を参照して）。問題は、興奮して期待した群衆は、「神の訪問の時」を認識しなかったことであつた。彼らは、ダニエルが預言した様に、救い主がこの最初の訪問の際に玉座につかれるためではなく、殺されるために来られたということを理解していなかった。イエス様は、玉座と金の冠ではなく、十字架といばらの冠に向かわれておられた。ヨハネが明らかにしている様に、イエス様の弟子たちでさえ、エルサレム入城の際にイエスを取り巻く出来事の意味を理解していなかった（ヨハネ12：16）。

異邦人の質問は時の変わりを伝える

過ぎ越しの祝宴に上っていた数人のギリシヤ人（異邦人、または非ユダヤ人）についての記述を読むことができるのはヨハネの福音書のみである。彼らはユダヤ教に改宗していた。イエスが到着したことを聞いて、この数人のギリシヤ人は、イエス様との面会を求めた。

祭で礼拝するために上ってきた人々のうちに、数人のギリシヤ人がいた。彼らはガリラヤのベツサイダ出であるピリポのところに来て、「君よ、イエスにお目にかかりたいのですが」と言って頼んだ。ピリポはアンデレのところに行ってそのことを話し、アンデレとピリポは、イエスのもとに行つて伝えた。（ヨハネの福音書12：20-22）

異邦人界に福音を広めるといふ使命が、使徒の働きの本々の主な焦点となった。異邦人からのイエスとの面会の要求に対するイエスの反応から、イエスは、異邦人によるイエスへの

関心が、最終的な備えの訪れを意味することを知っていたようである。イエス様は、十字架に行き、ユダヤ人と異邦人の罪のために死ぬことで、すべての人類に罪の赦しと永遠のいのちの賜物が与えられるようにしてくださった。

ダニエルによる「人の子」の幻と「すべての国とあらゆる言語の人々」の王国を確立するための権威が「古代の時代」に与えられていたことは魅力的である。

わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、見よ、人の子のような者が、天の雲に乗ってきて、日の老いたる者のもとに来ると、その前に導かれた。彼に主権と光栄と国とを賜い、諸民、諸族、諸国語の者を彼に仕えさせた。その主権は永遠の主権であって、なくなることがなく、その国は滅びることがない。

(ダニエル書7：13, 14)

神は常に全世界の救いに関心を持っておられる。ユダヤ人を他の国々に神を代表する「司祭王国」として用いようとされた(出エジプト19：5, 6)。神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。・・・(ヨハネの福音書3：16)。あなたの心は全ての人のために神の心を反映していますか？

ヨハネの福音書は、ギリシャ人の巡礼者との面会について触れていない。その代わり、この異邦人の関心がイエスに何を意味するのかを説明するイエスの言葉を詳しく記録している。

イエス、「時」が来たと宣言される

ギリシャ人の関心に反応され、イエスは「人の子」が死ぬ「時」が来たと宣言された。(ここで「人の子」という呼び名を用いられたことが非常に重要である。)彼の死によって、変えられたいのちの実を結ぶことが可能となった。そして、イエス様の死を通してのみ、悪が敗北する。

すると、イエスは答えて言われた、「人の子が栄光を受ける時がきた。よくよくあなたがたに言うておく。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。自分の命を愛する者はそれを失い、この世で自分の命を憎む者は、それを保って永遠の命に至るであろう。もしわたしに仕えようとする人があれば、その人はわたしに従って来るがよい。そうすれば、わたしのおる所に、わたしに仕える者もまた、おるであろう。もしわたしに仕えようとする人があれば、その人を父は重んじて下さるであろう。今わたしは心が騒いでいる。わたしはなんと言おうか。父よ、この時からわたしをお救い下さい。しかし、わたしはこのために、この時に至ったのです。父よ、み名があがめられますように」。すると天から声があった、「わたしはすでに栄光をあらわした。そして、更にそれをあらわすであろう」。すると、そこに立っていた群衆がこれを聞いて、「雷がなったのだ」と言い、ほかの人たちは、「御使が彼に話しかけたのだ」と言った。イエスは答えて言われた、「この声があったのは、わたしのためではなく、あなたがたのためである。今はこの世がさばかれる時である。今こそこの世の君は追い出されるであろう。そして、わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう」。イエスはこう言って、自分がどんな死に方で死のうとしていたかを、お示しになったのである。

(ヨハネの福音書12：23-33)

ダニエル書の預言通り、「人の子」は予定通り(483年)に来られた。しかし、世の玉座に即位されるためではなく、殺されるためであった。彼の死は、多くの実を結ために地面に植えられた種の様になる(ユダヤ人の間にも、また異邦人の間にも)。天界における霊的闘いのレベルで、イエスは「この世の王子」(サタン)と霊的な戦いに従事し、人類に対する権威の座からサタンを追い出すことになる。

注釈：ダニエルの預言とヨハネの記述の間には、歴史的レベルでの預言成就という点で大きく整合しているだけでなく、神とサタンの中で起こっている霊的闘いの肖像と宇宙レベルで整合している。ダニエル書では、ミカエルとガブリエルの様な天使の存在が邪悪な霊的存在と戦った（ダニエル書10：12-14）。ダニエルは、サタンが常にこの世で神のご計画の前進を妨害しようとしている洞察を教えている。更に、ダニエル書を通して、神がどの様にして支配を維持するためにサタンのあらゆる努力を常に克服しておられるかが分かる（例：ネブカデネザルが改宗し神の崇拝者になったこと。また、天使ガブリエルが「ペルシャ王」の対抗を克服するのを天使ミカエルが助けたこと。サタンに属する邪悪な天使がペルシャ王、または後にギリシャの王を導くためにサタンによって割り当てられたこと。参照：10：20）。

ヨハネの福音書の中で、似たようなテーマがある。確かに、イエスの生涯、死、復活は、邪悪な王国と光の王国との間の闘いであることが明確である（参照：ヨハネの福音書1：5）。イエス様の死の直前、彼は自分自身とサタンとの戦いが頂きに来るのを見た（参照：ヨハネの福音書12：31； 14：30； 16：11）。イエスの到来の目的を要約し、使徒ヨハネが後に記したことは驚くことではない：神の子が現れたのは、悪魔のわざを滅ぼしてしまうためである（第一ヨハネ3：8）。

群衆の混乱－イエス様の答え

群衆は混乱した。救世主（人の子）が来られたとき、永遠に続く王国を築いてくださると思った。死なれようとしているこの「人の子」とは、一体何者か・・・

すると群衆はイエスにむかって言った、「わたしたちは律法によって、キリストはいつまでも生きておいでになるのだ、と聞いていました。それなのに、どうして人の子は上げられねばならないと、言われるのですか。その人の子とは、だれのことですか」。（ヨハネの福音書12：34）

イエス様は単純にお答えになられた。明暗の戦いがまったく新しいレベルに到達しようとしているので、まだ時間があるうちに、イエス様にもっと近づかなければならない彼らに言われた。

ここでイエスは彼らに言われた、「もししばらくの間、光はあなたがたと一緒にここにある。光がある間に歩いて、やみに追いつかれないようにしなさい。やみの中を歩く者は、自分がどこへ行くのかわかっていない。光のある間に、光の子となるために、光を信じなさい」。（ヨハネの福音書12：35, 36）

当時も今も、イエスは「ただの人」であったという人が大勢いる。イエス様は、人類の支配者である父なる神によって、永遠の王としての権限を与えられた神聖な「人の子」である。イエス様は世の罪のために死なれ、そして悪の力を打ち砕かれたのです。彼は、再び来られ、悪の王国を打ち滅ぼされ、世の永遠の王国を築かれる（参照：黙示録18、19章）。事実、History（歴史）とは His-story（彼の物語り）である。

討論のための質問

1. 光の王国と暗黒の王国との間の闘いは実在する。神の御子と悪魔の間のこの進行中の霊的戦いについて、私たちの生きる世界でどのような証拠が見られますか？エペソ人への手紙6章は、この霊的戦いにおいて強くなるために何を教えていますか（エペソ人6：10-18）？
2. 群衆はイエス様が勝利の革命家であることを期待した。私たちは皆、イエス様にずれた期待を抱いている。あなた自身がイエス様に抱いている間違った期待は何ですか？
3. ダニエルはイエスがお生まれになる約500年以上も前に救世主について預言した。そして、イエス様がなされたことも仰ったこともダニエルのメッセージに完全に整合している。そのことによって、あなたは励まされましたか？それは神のみことばを受け入れる能力をどのように形状しますか？